

# 松山市出身「えひめ憲一」

## 来月、歌手デビュー

作曲家船村徹の下、13年間に弟子、付き人として下積みを重ねてきた松山市出身の小倉憲一(32)が7月、「えひめ憲一」として念願の演歌歌手デビューをする。「栃木と愛媛の二つの県がふるさと。地元で愛される演歌歌手を目指し、地元看板を背負っている気概で頑張りたい」と飛躍を誓う。(杉山演)

小倉は家族の影響などで、2年、出場した松山での目にとまり、船村への弟で幼いころから演歌に慣れ親しんで成長。3歳からのど自慢大会に出場し、県内や全国で数多く頂点に立った。

「演歌には日本人が忘れてはいけない、何かが残っている」。演歌の魅力を感じていたが、一方で「歌手は夢だったが、現実的には地元で公務員として働ければ」と考え愛媛大学農学部に進学した。

転機が訪れたのは大学



レコーディングに臨む小倉憲一(提供写真)

るさとを離れる不安、大学中退する将来への不安はあったが、家族の「やらないで後悔するよりも、チャンスだと思っけ」という言葉に背中を押され、1999年11

## 「地元密着で細く長く」

月、船村に入門。日光市の船村のアトリエで、身の回りの世話をしながら、指導を受けてきた。

13年間の修業時代には「いつデビューできるのか、不安で眠れなくなることもあった」。しかし、デビューを目前に控えた今は「13年間のすべてが勉強だった。聴く人の気持ちに分かる歌手になるためには、必要な時間だった」と感じている。

デビュー曲は7月18日発売。船村の作曲による「故郷がいちばん」は家族、遠く離れた古里への思いを、メッセーシ性豊かな詞と耳になじむ哀愁あふれるメロディーで表現している。

今後は栃木と愛媛をベースに活動する。「自然に素直な気持ちで歌い続けたい。地元密着で細く長く愛される歌手を目指したい」と、地元愛を胸に夢の一步を踏み出す。